

平成23年2月10日発行

第152号

こうふ町 議会だより

町勢

世帯数/1,138世帯

人口/3,506人

(平成23年2月1日現在)

町の木



ふな

町の花



あやめ

12月定例議会	……………	2P~3P
いっぱん質問 町政を問う	……………	4P~7P
地方行政調査	……………	8P~9P
町内所轄事務調査	……………	10P~12P
陳情の審査について	……………	13P
私のひと言	……………	14P



みんな雪だるま!!

(子供の国保育園)

12月定例会

一般会計 487万円増額

予算総額 33億6339万円に

補正予算

一般会計

主要内容

●総務費

(過疎バス対策費)

1112万円増額

バス車両購入費(1台)

●総務費

(過疎バス対策費)

40万円増額

バス舗装修繕料

●総務費(産業振興費)

159万円増額

エバーランド

浄化槽修繕料

平成22年12月定例会は12月17日に招集され会期を22日までの6日間と定めて開かれた。

今回の定例会には平成22年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例の一部改正など15議案が提出された。

議会ではこれらについて慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決した。

20日の本会議では、4名の議員が一般質問に立ち、町政について議論した。



議会審議



更新車両



光ファイバー設置

●総務費

(企業誘致対策費)

64万円増額

小江尾工業団地測量委託料

託料

●消防費(防災費)

47万円増額

防災行政無線修繕料

●教育費(学校管理費)

45万円増額

中学校光回線対応施設整備工事請負費

●民生費

96万円増額

(児童福祉施設費)

●教育費(放課後子ども教室事業)

67万円増額

放課後子ども教室事業補助金償還金

61万円増額

光回線対応施設整備工事請負費

●教育費(運動公園管理費)

39万円増額

光回線対応施設整備工事請負費

32万円増額

地デジアンテナ受信工事

特別会計

●国民健康保険特別会計(事業勘定)

予備費316万円減額

し、一般被保険者高額療養費に121万円、一般管理費に195万円充当するもの

●国民健康保険特別会計(施設勘定)

220万円増額

総務費を減額し、予備費に充当するもの

●介護保険特別会計(保険勘定)

2358万円増額

保険給付費等3026万円増額し、予備費を668万円減額するもの

●索道事業特別会計

予備費505万円減額し施設管理費に充当するもの

●簡易水道事業特別会計

697万円減額

水道施設整備費減額によるもの

●農業集落排水事業特別会計

372万円増額
排水施設整備費増額によるもの

条例制定

▼江府町過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例

過疎地域自立促進特別措置法により製造の事業、情報通信技術利用事業、旅館業の用に供する設備を新設し、増設に係る固定資産税の課税免除について、町内産業の活性化を図ることを目的とする。この条例は、平成23年4月1日から施行する。

条例改正

▼江府町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

この条例の一部改正は、期末手当基礎額の割合変更と行政職給料表改正について、江府町条例の一部を改正する条例

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

▼江府町特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例及び江府町教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例

特別職の職員の期末手当の割合改正と教育委員会教育長の期末手当の改正について、条例の一部を改正する条例
この条例は、平成23年4月1日から施行する。

指定管理者の指定

▼江府町介護老人保健施設あやめの指定について

指定管理者となる団体の名称
日野病院組合

管理者 景山亨弘
指定期間
平成23年4月1日から平成26年3月31日



あやめ

一般質問 町政ここを問う

一般質問は4人の議員が行い、町長ならびに選挙管理委員長の方針をたじた



日野尾 優

後期総合計画は 財政会計は

問	計画の目玉について
答	地域が元気になる取組みを

質問 総合計画は、まちづくりの最高理念であり、今年度から「過疎地域」

として再度指定となった。過疎地域自立促進計画

にあたり、将来像及びこれを達成するための施策

であります。高齢化社会を迎え、介護、余暇の活

用、ごみ処理等の環境問題、保健衛生などの住民

に身近なソフト面を重視し自然と調和した産業基

盤の整備、歴史と文化を誇る個性あるまちづくり

に当たって、新しいキャッチフレーズを創案し、

前向きな姿勢を意図した

「きらめく町政」をめざ

すメインテーマ、目玉が

必要です。ハード、ソフト

の両面から調和のとれた

総合計画、これに伴う

財政収支計画などについて

創意と工夫が問われま

す。所見を町長に伺う。

町長答弁

第4次総合計画につい

ては、平成18年度から10

年間の計画で、基本構想、

基本計画、実施計画の3

本立てになっております。

「小さくても元気で明る

い輝きのあるまちづくり」

を基本理念として、7つ

の基本方針のもと、過去の

実績や町内の状況に経

済環境・社会情勢などを

勘案し、5年を経過する

に当り基本計画と実施計

問	会計システムについて
答	前向きに検討

質問 どのような、組織

であれ、組織が組織として

効果的に機能するため

には、「経営」の視点が

不可欠であります。

これまでの行政には、

画部分を見直しているこ

ころです。新年度予算に

緊急性等を考慮しつつ経

済状況、財政推計も勘案

し、基本計画、実施計画

との調整を図り、今後5

年間の方向性を定め、内

容が「わかりやすくなる

表現」とし、3月議会に

総合計画後期分を提出し、

地域が元気になる取組み

を進める。

町長答弁

バランスシート等によ

る、公会計の経営的視点

と、わかりやすい財政情

報の提供の取組みは、ご

指摘のように従来の公会

計は、「コスト・ストック・

マネジメント等について

の情報が欠如している

といわれております。これ

らをカバーするものと

して、法的に強制されるも

のではありませんが、平

成19年総務省より貸借対

希薄であるといわれてい
ます。行財政の効率化の
ため、財政情報を分かり
やすくするため、公会計
を整備し、「機能するバ
ランスシート」の財務諸
表の取組みが必要で
す。町長の所見を伺う。

知っておきたいことば

バランスシート：
貸借対照表（資産・負債・純
資産または持分の一覧表）

コスト：価格

ストック：蓄え

マネージメント：経営などの管理

キャッシュフロー：お金の流れ

照表を含めた財務諸表の
作成に向け、概ね平成23
年度には取組むようにと
全国に通知がありました。
財務諸表を作成する目的
の経営という面を考えた
場合、行政が行っている
事業は、経営部分より運
営部分が多く、極端な投
資はしにくい部分があり
ます。しかし、本町とし
ては、より詳細な財政状
況の分析による経営判断
を行うため、作成後の活
用と効果を勘案し、キャ
ッシュフローの見方も行
いながら専門性の高い内
容を、いかに簡素化し効
果的な内容にするのかを
ポイントに、平成23年度
には総務省が示す内容に
ついて前向きに検討した
い。



長岡 邦一

問	環境王国の 今後は
答	環境王国奥大山 ブランド化へ

質問 平成21年6月30日環境王国として認定され新聞等で報道され21年7月の町報に次のような記事がのっております。
「今回の認定に伴う第一弾の取組として鳥取西部農協では、減農薬、減化学肥料栽培の江府町産コシヒカリをブランド名『奥大山こしひかり』として近畿圏の小売店で売り出す予定です。また、他の農産物、特産加工品等についても「環境王国奥大山」ブランドの構築にお

けて振興を図っていく計画です。」
あれから一年半経つたが、これまでの取組と今後の環境王国の利活用をどのように考えているのか伺う。

町長答弁

本町は平成21年6月30日に、豊かな自然を守りながら農業生産を行っている自治体として環境王国の認定を受けました。優れた米文化を守る活動を目的として、国産米の消費拡大に農家、流通業者、外食産業の活性化を目指し、すぐれた米文化を守る目的として、平成10年6月に大阪で設立された民間組織、米・食味鑑定士協会が始めた取り

環境王国について

組みです。江府町は、平成21年6月30日、全国で6番目に西日本では初めての認定を受けました。
JA鳥取西部において、特別栽培米については、「奥大山米」として江府町産のみ、米卸を通じて販売をされています。しかし、町民の皆さんに

まだまだ広がっていないのが現状です。
今後は、特産についてこの地域で生産される農産物、特に認定制度というものをきちんと形にしていきたいと思えます。どの農産物であろうと、特別栽培米、またはエコファーマーの認定を受け



小学校稲刈り

た方が生産するものについては、環境王国の王冠の付いたシールを張っていただいで、販売・普及していこうと思えます。
併せてホームページを活用して、環境王国で生産された農産物を掲載して販売の普及の一端を担っていきます。
生産物だけではなく、環境の良いところで無くてはいけません。
放っておくと悪化につながってしまいます。
江府町がいかに環境にすぐれているかを、皆さんと一緒に取って取り組んで行かなければ成りません。

「環境王国」ブランド化を皆さんにも周知を図っていきます。

知っておきたいことば

エコ・ファーマー：

持続農業法に基づき堆肥などを施して土地の力を高め、化学肥料、科学農薬を減らす生産計画を都道府県に提出し認定された農業者をいう。

福祉政策について



上原 二郎

問
社会福祉協議会は

答
自主的取組を

質問 現在、江府町では診療所を中心に医療については充実していると思えます。介護については介護老人保健施設あやめや、チロルの里特別養護老人ホームが、施設サービスを提供し喜ばれています。自宅で介護を受ける方のためには社会福祉協議会がホームヘルプサービスを提供しています。そのような中で、今年9月に社会福祉協議会より陳情書が提出されました。その内容は、社会福祉協議会が今行っている介護保険事業と地域福祉

事業を今後も続ける事とし、その為に次の3項目が陳情されています。

1. 江府町社会福祉協議会への財政的援助
 2. 江府町総合計画における社会福祉協議会の明確な位置づけ
 3. 地域福祉計画の早期策定並びに計画の中における社会福祉協議会の明確な位置づけ
- となっております。
- あり方委員会の報告書も提出され、陳情書が出されました。町長の社会福祉協議会に対する考え方を伺う。

町長答弁

陳情書が提出され、議会で趣旨採択されました。また、社会福祉協議会の役員による運営補助金の

要求の陳情もありました。その折に、次のことを申し述べてあります。今、町民の皆さんは社会福祉協議会がどんな活動し、何のために存在しているのか、疑問を抱いている人もいます。そのために、社会福祉協議会の活動をアピールするため町報の紙面を提供するので活用して頂きたいと申しております。

今後は公的機関の下請け機関ではなく、主体的な社会福祉協議会になるべきであると考えます。陳情書の訴えは受動的で、行政まかせのように

感じてなりません。福祉保健課と連携し、社会福祉協議会が地域福祉を担う原動力になって頂き、今後、ニーズを増す介護事業の展開、自主的な運営を心掛けて頂いた上で、介護事業に関する赤字部分は、町として財政支援を考えたいと思います。

社会福祉協議会の存在する意味を自らが町民に訴え、行動を起こして頂きたいことを強く申し上げます。期待するものであります。

再質問 社会福祉協議会は地域福祉を担うため昭和62年設立し平成12年介



雪の中の訪問

護保険制度ができて在宅介護を事業として行うようになりました。地域福祉は収入のない事業であり、人件費は町の補助となっていました。平成18年から町の財政が厳しいという理由で約1600万円あった補助が半分になり現在まで続いています。答弁にあった介護保険の赤字を補填するという補助の考え方は、今までの補助の出し方と全く考え方が違います。全く収入のない地域福祉はこれでは出来なくなります。

町長答弁

あり方検討委員会では介護事業と、地域福祉にも力を入れるよう提言していますが、町長の意見を伺う。

社協として積極的に地域福祉をやることに対しては、財源を介護に限っている訳ではなく必要な支援はやむを得ないと考えます。いずれにしても福祉保健課と情報交換し社会福祉協議会の考えを示して頂きたい。

投票所の削減のその後は



田中 幹啓

問	期日前の投票について
答	慎重に検討

質問 投票所が削減された場所は投票率が過去、最低になつている集落もあり地域では、投票はな

れが今後、すすむのではないかと危惧している。県一を守つたと言われているが、内容を分析すると今回の選挙は候補者の話題性と江尾を中心とした地域の投票率がアップしているのであつて、格差が生まれた地域の投票率をどう、もどして行くのか課題も生まれている。

青森県などは投票所は守るのだと、政治参加の第一歩のため、ポリシーとしてやっている。あの夕張も投票所だけは守るのだと言つ考えてあり、行財政改革の最後に行なうものであるという考えだ。今まで投票を続けていた人が期日前投票のあり方にも疑問を投げかけている。宮崎県の三股町のやり方は研究に値する。ポリシーを持つて考え直す必要を感じる。財政より政治参加の必要について選挙管理委員長の考えを伺つ。

千藤選挙管理委員長長答弁

投票所の見直しに伴つて投票率の下がった集落については真摯に受けとめなくてはならない。今回の参議院選挙で、期日前投票を利用した人が380人から526人にア

ップした。またバス利用者も1名であつた。選挙において平等公平が保たれる必要を感じている。投票所が遠くにあつても投票率を維持していることに感謝し、又誇りに思つている。今回の配置は有権者と投票所までの距離を勘案している。投票率については選挙の種類によつて違つてくるので今後の推移を見守つていきたい。期日前投票の2つ目の設置については、問題等もあるので慎重に検討してまいりたい。委員会としても選挙意識を高め、町民が一人一人が町を変えていくのだから目的意識を持つて投票をして欲しいと願つている。啓蒙、啓発も重要だと考えている。

問	環境と山・木を大切に
答	関係市町村と連携を検討

質問 今、環境が大きく変わろうとしている。ク

マイノシシ、サルなどが江府町にも出没している。かつては、ウサギ、スズメ、カエル、タケなど：自然と人間が共生していたような気がする。ナラの木も枯れ、広葉樹にも被害が。マツが枯れた姿には心がいたむ。こんな中、森を守るのだ。木を大切にすると、山に光を与えるんだという声が広がるつとしている。第64回の植樹祭の植樹のイベントが、あの鏡ヶ成の大地で行なわれる。景観、ブナの山：としてアピール出来る。同時にこのイベントを、一過性のもので終わらせることなく、木を大切にすると、自然と共生する町、本町の木であるブナとどう歩むのか、いま一度考える必要を感じる。企業が山の大切さを訴える時代になつている。シンポジウム等の開催について町長の所見を伺つ。

町長答弁

第64回全国植樹祭では本会場は南部町花回廊で行われる。江府町は植樹

会場ということになり、奥大山鏡ヶ成で実施されます。

地域環境の保全や、里山等、森林と親しみながら共生して行くライフスタイルを提案するなど、環境先進県をアピールしていく趣旨を持つています。樹種の選定に当たつては、ブナ、トチの木など、26種類程度が検討されています。サントリー126ヘクタール、山陰合銀、173ヘクタールなど町と協定して健全な森の育成につとめている所でもあります。サントリーの水と森の学校、中学生を中心として鏡ヶ成にブナの育成を続けている所でもあります。ブナの木を27市町村が、町の木に指定しているのので連絡会の方向と併せ、サントリーは全国で5000ヘクタールの水源涵養の森を協定しているの、これらの市町村と連携する方向も考えて見るのも一つの方法だと考えます。

地方行政 調査報告

(平成22年10月6日～8日)

上小阿仁村について

秋田県北秋田郡上小阿仁村

調査の概要及び結果
上小阿仁村の教育制度の整備について、学校教育の取組みについて

目的
まちづくりは人づくりが基本であり、次世代を担う学校教育は、重要であります。幼保・小・中一貫教育制度並びに教育に積極的に取り組んでいる先進地を調査し、江府町のまちづくりに活かす。また、行政の取組み体制を参考にしたい。

概要

上小阿仁村は、農林業を主体とした典型的な過疎地で、人口2884人、高齢化率44・5%、21年度一般会計、歳入総額28億3,800万円、議員定数8名。財政状況は厳しく、予算編成上の原則「基金には手をつけない。ただし、一時的必要

藤里町について

秋田県山本郡藤里町

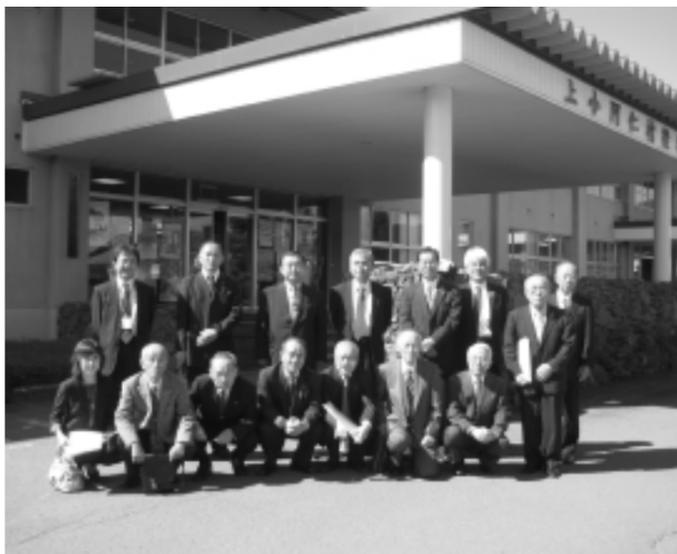
調査の概要及び結果
藤里町の自立のまちづくりについて
議会の活性化への取組みについて

目的
地域主権を迎え自治体の決定と責任は重要度を増している。自立のまちづくりと、議会の活性化に取り組んでいる先進地を調査し、江府町のまちづくりに活かす。

概要

秋田県の北西部に位置し、人口3992人、高齢化率38・7%、21年度一般会計、歳入総額5億5,200万円、議員定数12名。
単独町を進めるため、機構改革検討会、庁舎配置検討会等を立上げ、町民と行政が「ともに考え、ともに進む」ことが必要不可欠で、財政コミュニケーション等提示、「緑と

充足目的で、例外的に3千万円を上限とする基金取り崩しを許可。しかし、年度末には収支のバランスをとる。「しかも、「金利の高い借入金繰り上げ償還する。」を導入し、国と直接交渉した。自主的な財政再建により、次世代に借金を残さない方針のもと、意欲的に独自性を発揮している。教育については、秋田県は児童・生徒の全国学力テストで、トップクラスに所属、その中でも村は、上位五指に位置づけられ、小・中併設の下に一貫教育を目指し、保育園に幼稚園機能を付加し、認定こども園(保育園型)を実現、保育活動の中に英語教師による指導をしている。幼・小・中一貫教育を実現し、義務教育の水準の高さが伺える。教育・福祉・環境整備に積極的に取り組んでいる。また、常に情報収集と情報発信に心がけ、大胆な



調査一行

魅力あふれる町・ふじさと」の実現のため、生活環境の整備、白神山地の特性と資源を活かした新たな産業の振興、保健、医療福祉の充実と連携、人材の育成を基本とし、美しい豊かな自然と歴史、文化を大切にしながら、自然と共生した町の発展に努め、町民がいきいきと活力に満ちた「町民総参加の町づくり」をめざしている。
自立のまちづくりとして、行財政のスリム化、職員定員適正化計画の推進を掲げている。
議会基本条例制定について、町民から「議員の仕事が見えない」「日額報酬にするべきだ」「定数を削減するべきだ」の声もあり、「議会改革等に関する諸調査特別委員会」を設置し、全世帯に「議会改革に関する提言書」用紙を配布し、町民の意見を取り入れた。委員会、全員協議会を開催し、調査協議した。諸調査結果報告書の主なもの



議場にて



研修会場

提案と実行が目を引いた。

といわれる。

主な取組み事業

- 一、高度情報化事業(光ファイバー設置)
- 二、認定子ども園
- 三、滞納村税の欠損処分
- 四、家庭内介護者への介護保険からの支給
- 五、子宝祝い金

考察

地方自治体の役割が重要度を増している現在、「企業は人なり」「まちづくりは人づくりから」

少子高齢化、人口減少の中、人材の育成は重要な課題です。
教育先進地の事例を参考に、幼保・小・中一貫教育の教育制度、知育・徳育・体育の学校教育、学校・家庭・地域社会総ぐるみの取組み等、教育行政維持発展のため、検討する必要があります。行政の取組みについても、先進地の事例を参考に活力あるまちづくりに活かしたい。



議長説明

報酬

同規模自治体との比較、次世代の後継者が議会活動に専念できる報酬、議会活動の活性化等、現行どおり。

一般会議

議員と町民が自由に意見交換できる会議、団体等からの要請は議会の求めにより開催。

町民報告会・住民懇談会

議員が出向き、常任、特別委員会など議会活動の状況を報告し、町政に対する提言などを聞く。

考察

地域主権を迎え、自治体は洞察力、決断力、実行力が必要である。自立のまちづくりについては、総合計画に則り、先進地事例を参考に「小さくても元気で明るい輝きのあるまちづくり」に活かし、議会の活性化への取組みについて、開かれた議会のため、議会基本条例制定先進地を参考に、江府町版議会基本条例について協議、検討する必要がある。

総務経済常任委員会

調査日 平成22年11月9日

事務調査

1、行財政改革の進捗状況

(ア) 平成21年度決算における公債費比率22・4%と高いが、繰上げ償還をするなど、厳しい財政状況の中、昨年より0・4%改善されたことは評価に値する。財政推計は平成24年度まで厳しいが、適正化に向けて改善の努力がうかがえる。平成16年から6年間の行財政改革の中、人件費においては町長の20%カットをはじめ、副町長・教育長12%、職員7%カットし、議員は報酬の12%カットを行い、約4000万円減額している。公債費は平成21年度9億6600万円であったが、繰上げ償還をし、積立を行うなど基金積立ができた。職員数も定数82人で在職77人から68人となり、少数で住民サービスに努める



市民農園

と共に今後も繰り上げ償還を行うなど、実質公債

費比率を確認しながら行

財政改革に努められたい。

(イ) 行財政改革と併せて、町税の収入状況は滞

納者の固定化がみうけら

れる。

県下でも高い徴収率は、

職員の地道な努力のおかげです。固定資産税の82

%は中国電力の俣野川発

電所分で、今年度5億4千万円ですが、個人の各税金・保険料等の未納者が増加しているため、今後徴収に万全を期されたい。

2、企業誘致の状況

株式会社サンエス自社

工場（サンミネル事業部）の進出について、現

在生産委託している江府

町地域振興株式会社を生

産能力が満杯状況のため

BIBと3ガロンボトル

工場建設について、今後

の状況について確認した。

現在、関係集落に説明し、工場予定地権者への挨拶等進んでいる。併せて水量調査等進めている状況で、各条件整備を整えて新工場の建設・操業出来るように努められたい。

3、指定管理施設笠原市民農園の管理運営状況

利用者が予想以上に減

少し、農園については区

画面積を見直して募集を

行ったが、契約者が3件

と少ない。今後運営審議

会等で十分検討され、面

積の再考・畑地の活用等

を含め行政も一緒になっ

て改善に努められたい。

4、江府三次線江府道路

下蚊屋バイパスの進捗状況

(ア) 地域高規格道路、

江府三次道路進捗状況

去る7月27日議会に県

土整備局から洲河崎地内

の中祖谷を通らずにトン

ネルで宮の谷と久連とを

結ぶルート変更の説明が

され、出席議員全員了解

し、関係集落・地権者の

方々にご理解とご協力を



下蚊屋バイパス

頂いて、早期着工されるよう要望した。

以後、事業の進捗状況

を調査し、関係集落に

地元説明を行い、了解を

得られた地区から用地調

査及び用地買収交渉を進

め、佐川地区の一部工事

を年内に着工される事を

確認した。工事は、橋り

よう工事から着手予定。

将来に向けて必要な道

路として早期着工を望む

ものであり、県・町と一

体となって関係者にご理

解をいただき、更なる進

捗を図られたい。



下蚊屋バイパス

(イ) 国道482号下蚊屋バイパスの状況

昨年、平成23年春供用開始の説明をうけたが、平成23年9月供用開始目標に修正され、現在平成

22年度の進捗率70%を確認した。

今後4億5000万円の未発注がありますが、冬期間になるので、特に安全に配慮され工事を進められたい。

5、町道の維持管理状況と危険箇所

昨年から町営バスの運行が開始された町道江尾杉谷美用線の杉谷地区が特に幅員が狭く、落石の危険があることが確認されている。今期工事発注され改良が進む状況です。安全に配慮して工事を進められたい。

これから冬期間雪道は更に危険度が増してきます。各路線の危険箇所についてもパトロール等により、事故がないよう道路の維持管理監督に努められたい。



サントリー奥大山ブナの森工場

現地調査

1、国道482号下蚊屋バイパスの進捗

工事も最終の冬に向かっているが、下蚊屋集落全域に生活等支障がないよう、工事の安全施工は勿論、十分配慮されなければならぬ。県土整備局と連携をとりながら、安全に工事が進むよう管理監督に努められたい。

2、サントリーの新井戸ポンプ状況

前回の企業誘致調査特別委員会での説明のあった新井戸ポンプの状況を確認した。適切に処理してあったが、今後の事業推進については速やかに議会に説明し、進められるようにされたい。

3、全国植樹祭会場予定地の状況確認

全国植樹祭会場予定地（江府町御机709-27番地10、909m）は草を刈って生息植物の確認等が行われている。関係機関と連携を密にし、準備を進められたい。



植樹祭予定地

教育民生常任委員会

調査日 平成22年11月15日

江府小学校

平成21年4月、4つの

小学校が統合され江府小学校がスタートした。平成22年9月現在の生徒数は139名であるが平成28年には87名の予測となっている。施設については、これまでに校舎の耐震補強と大規模改修、駐車場の設置、体育館が建設され、古くなったブルーの濾過装置の取替工事が行われ、急がれる整備は完了している。通学については、PTAや交通安全指導員、地域のボランティアの協力で登下校指導を行っている。当初心配された踏切りも今の所問題は起こっていない。児童の状況は地域による差は見られず、個人の個性に応じた友達関係を築いている。いじめについては現在確認されていない。

いだが、今後も起こらないよう注意を払って頂きたい。

全国学力テストの結果を生かすために、特色ある学習の取組みとして「算数指導のチームティーチング」「国語算数の個別指導」「学習支援員の活用」「5、6年生の英語活動」等が行われている。

PTAからの要望としてすでに町長宛に提出されていますが、その中で小江尾踏切りの歩道の延長整備については貝田、大河原線を利用する児童の降車の問題もあり実現に向けて努力願いたい。

子供の国保育園

保育園は、昭和54年に新しく子供の国保育園として建設され30年が経過しその間、増改築を行い

現在に至っている。一部建屋の雨漏り、ボイラー設備のない部屋の暖房、給食室の改良など課題となっている。

現在、多くの家庭が1歳から子供を預けている状況の中、保育園では5年前より新しい取組みを行っている。例えば、異年齢保育といって年少、

年中、年長の園児を1つのクラスにし仲間と共に困難に立ち向かう子供に育つよう保育している。又、環境保育も取り入れ1つの教室で上手く過ごせるよう空間を区切っている。その他、園庭の芝生化は想像以上に子ども達の保育に効果をもたらしている。こういった取り組みは、県内でも先進的であり他の保育園が視察に来ている事からもわかるように、園長以下保育

に対する熱意が感じられる。現在の職員数は、園長以下保育士8名、嘱託保育士4名、臨時職員2名、居残りパート1名、調理師1名、調理補助3名となっている。色々な

取組みをする上で、現在の職員体制では手一杯となっている。又、年齢構成を見ると年齢に偏りがあり、職員構成について配慮する必要がある。

介護老人保健施設 あやめ

開設5年目を迎えた介護老人保健施設あやめは、武田施設長のもと「利用者第一」を基本にサービスの充実に努めている。経営的には、平成21年は約2千万円の収益となり、開設からの累積剰余金が約1千万円とほぼ計画通りに進み順調に推移している。平成21年延べ入所利用者の実績では、町内の利用者は860名中220名の利用となっている。

短期入所者は235名中江府町109名、通所リハビリテーションは町内利用が多くなっている。又、日野病院からの入所再入院が約7割となっており、日野病院にとって重要な施設となっている

事が伺える。今後、看護師等の人材確保、各設備の修理、改修が課題として挙げられる。

社会福祉協議会

昭和62年に設立された社会福祉協議会は現在、ケアマネージャー3名、ホームヘルパー5名を含

め11人の職員で運営を行っている。事業の中心は在宅福祉サービスですが経営的には厳しく、町の補助を得て運営されている。現在、給与、賞与の10%カットを行っているが、9月末時点で260

万円の基金取り崩しで対応している。さらに今後の事業を展開する上で、看護士とヘルパーの資格を持った職員1名の増員が必要とされている。又、移動入浴車の老朽化と利用者1名という現状の中で看護士の問題を含め検討していく必要がある。

9月議会に陳情書が提出されており、町と社会福祉協議会が緊密に連携をはかり、在宅でサービスを受ける町民が安心して福祉サービスを受けられるよう、町の支援をお願いしたい。



江府小学校

奥大山スキー場

雪崩災害にあたり

昭和38年の豪雪を思わせる雪の中、平成22年12月31日の午後、奥大山で雪崩が発生し、4人の方々が亡くなりました。議会もこの痛ましい事態を深刻に受け止め、1月1日議場において、悲しみの黙祷を捧げました。帰らぬ4人の命を思う時、肉親を亡くされた家族の悲しみの深さは、はかりしれないと思います。町としても誠意ある対応を真剣に検討し、二度とこのような惨事が起らないよう、早急に対策をたてていきたいと思ひます。そして今は、ただただ安らかな眠りを祈るばかりでございます。 合掌

第1回臨時会

平成23年1月19日開会

一、一般会計補正予算

(第4号)

奥大山スキー場災害に伴い1074万9000円予備費から充当するものです。

三、辺地計画を変更

美用地区農業集落排水事業を組み入れ財政優遇するものです。

四、一般会計補正予算

(第5号)

二、老朽化した町営バスの更新に伴い新車購入契約の締結

契約の相手方

島根日野自動車(株)

米子支店

契約金額

1008万円

(税込み)

国の「きめ細かな交付金事業」「光をそそぐ交付金事業」に伴う補正予算約5000万円。

主なもの

保育園の屋根とシロアリ対策、役場庁舎のトイレ改修、図書整備。4案とも原案どおり可決いたしました。

陳情の審査結果

みなさんから提出のあった陳情を審査した結果、次のとおり決定しました。

Table with 3 columns: 件名, 提出者, 審議結果. Rows include items like '2011年度国家予算編成において教育予算拡充を求める陳情', '「交通基本法」制定に関する陳情書', etc.

【継続審査】

Table with 3 columns: 件名, 提出者, 審議結果. Row: 日本軍「慰安婦」問題の解決をめざすよう制定を求める意見書の提出を求める陳情書

ひと言



江尾 西口 澄江 (大阪府在住)

江府町に乾杯!



冬が来ると小学校の頃を懐かしく思い出します。エプロン姿の女先生が湯気の中で大豆を白に移し、男先生が杵を振り上げ、江尾小学校の味噌作りが始まります。児童は周りをとり囲み先生達が生懸命味噌を作る様子を見ています。その味噌で冬の間の味噌汁給食が始まるのです。味噌汁を作るのは、お母さん達。やがてほんのりいい匂いがします。暖かくて優しく、美味しい匂い。私は必ず3杯お代わりしました。なぜってその味噌汁はやる気が出るし力も湧いてくる。とつても美味しい味噌汁だからです。江尾小学校の味噌汁はとて不思議な魔法の味噌汁。そ

れから伯備館で上演される神楽も大好きでした。八岐大蛇が酒に酔ってクネクネ動く様が怖くて父の背中に隠れながら目を細めて観ました。また江尾駅前広場での映画会も楽しみでした。大きなスクリーンは色々な物語で私の夢を大きく膨らませてくれました。でも何となく夢も夢といえど江尾の十七夜です。毎年8月17日がどんなに待ち遠しく楽しみだっただけでしょう。そんな話を子ども達にすると目を輝かせ聞いていました。魔法の味噌汁、八岐大蛇、江尾十七夜の夜空にパッと花咲く大輪の花火どれもステキな思い出です。それから小学校の卒業記念に何か残る物をという事で日野川の石を使つて校門を作る事になりました。石を運ぶのはとても大変です。重たいので途中何度も休みました。でも完成すると一人ではできないけれど、みんな力であわせればできるのだと満足感で一杯でした。今も凛々しく立っている校門をみると懐かしくあの頃を思い出します。こんな風に幸せな思い出や日野川や大山さや暖かさに包まれ見守られ今迄やって来る事ができました。江府町に生まれ育つて本当に良かった!! 江府町に乾杯!!

私を育ててくれた町



武庫 田淵 盛之 (松戸市在住)



故郷を離れて半世紀近くが過ぎました。今住んでいる千葉県松戸市の自宅からは遠くに富士山が見えます。見る度に思い出すのは伯耆富士です。米子工高に通う汽車の窓から見た富士の形は優雅ですが、私は江府中学の窓から見える、荒々しくも悠然とした大山が好きです。中学が統合した二年生の春、校舎から白い大山を見て「よくぞ、ここに学校を建てた!」と感動したものです。私はテレビ番組の制作をしています。大山を源流にする俣野川や裾野の山野を駆け回ったことが仕事に役立っています。自然の中の遊びで身に付けたサバイバル術を元

にアウトドア番組を手がけ、また、川漁師と子ども達が川遊びをしながらかの汚染を知る環境番組を制作したりしました。学力が世界一と言われるフィンランドの子どもを取材した時「地域が育てる子どもは賢く育つ」と実感しました。フィンランドでは放課後になると生徒達全員が地元有志達が主宰する運動クラブや文化サークルに参加します。毎日、午後二時頃には学校はもぬけの空です。地域の公共施設やその周辺で乗馬や柔道、合唱など大人に交じつて、子ども達が練習していました。私たちの子ども時代には立派な公共施設など、ありませんでしたが、私達も放課後には、お寺の庭などで多様な年齢層の子どもの遊びました。相撲や缶蹴り、山菜採り、魚釣りも先輩達が教えてくれました。年代の違う子ども達が共に自然の中で遊んだことが大きな学びになり、私に生きる知恵や力を授けてくれたと思います。少子化時代で、今の子ども達は気の毒ですが、私を育ててくれた故郷の江府町に深く感謝しています。



▼平成23年がスタートしました。新たな夢や目標に向う人も多いでしょう。

▼大みそかから元旦にかけて山陰地方をおそった豪雪、昨年の猛暑に続き、またも自然が牙をむいた。ウサギ年の豪雪という「昭和38年豪雪」サンパチ豪雪を思い出します。今年は無事故、無災害を祈念いたします。

▼政局は波乱の様相、経済は低空飛行の状況です。

▼議会だより編集委員は本年も住民皆様に親しみと関心を持って頂ける紙面づくりに努力します。で、ご意見などお寄せ頂きますようお願いいたします。

議会広報調査特別委員会

- 委員長 日野尾 優
- 副委員長 川上 富夫
- 委員 森田 智
- 委員 田中 幹啓
- 委員 越峠恵美子